



# 学校だより

## うけとめるちから

がっこうちょう いしかわ ひでこ  
学校長 石川 秀子

植木鉢で育てている野菜の苗がぐんぐん育ち、子どもたちがそれぞれ収穫の日を楽しみに待っている姿を見かけます。ペットボトルは万能道具で、じょうろがわりに水やりに利用したり、実験道具に変身させて水鉄砲になったりと子どもたちの活動を支えています。再び、まん延防止等重点措置が延長となり、感染防止に取り組む日々が続いていますが、子どもたちの日々を生き生きと過ごす姿に励まされます。

横浜市では「児童生徒一人ひとりが国際平和のための自分の考えを言葉で表現することによって、国際平和に対する意識を高め、国際社会で自分たちのできることを実践しようとするグローバル人材を育成する」ことをねらいとして、各校で「よこはま国際平和スピーチコンテスト」に取り組んでいます。今年度は感染症予防対策のため、区の選考会はビデオ審査となり各校代表者が一堂に会することはできませんが、本校でも5年生と6年生が「持続可能な開発目標」に基づく17の視点について学び、テーマを自分で選び、スピーチに取り組みました。言葉を選び原稿用紙に向かう姿や、お互いに聞きあい助言しあう姿など、スピーチの内容も大切ですが、その過程で現れる子どもたちの学び姿が素敵です。そしてどのスピーチも堂々としていて、それぞれの体験や主張が伝わるように工夫された発表でしたが、何より感心したのは受け手の子どもたちの姿でした。

話し手のほうを向き、全身で話し手の言葉や表情から思いや工夫を受け止めようとしています。良かった点や、改良点なども率直に伝えあっています。聞きあうことで、お互いのつながりの温かさが増しているような時間と空間を感じました。また、6月は体力テストもあり、校庭に50m走やソフトボール投げのラインなどが引かれている日も多くありました。子どもたちは当たり前のように、線を踏まずに歩いていきます。「当たり前」といえばそうなのですが、立野の子どもたちの中に「誰かが準備していることに気付く」「気付いて、尊重する」力が、育ち根付いている表れなのだと思います。

これから子どもたちは世界中の様々な人々と出会い、かかわりあっていくことと思います。相手の考えや思いを受け止め、理解しようとしたり慮ったりしながら、自分の役割も果たす自立した人間に成長していく柱は、毎日の子どもたちの学びによって支えられていることを改めて感じます。今月もよろしくお願いたします。